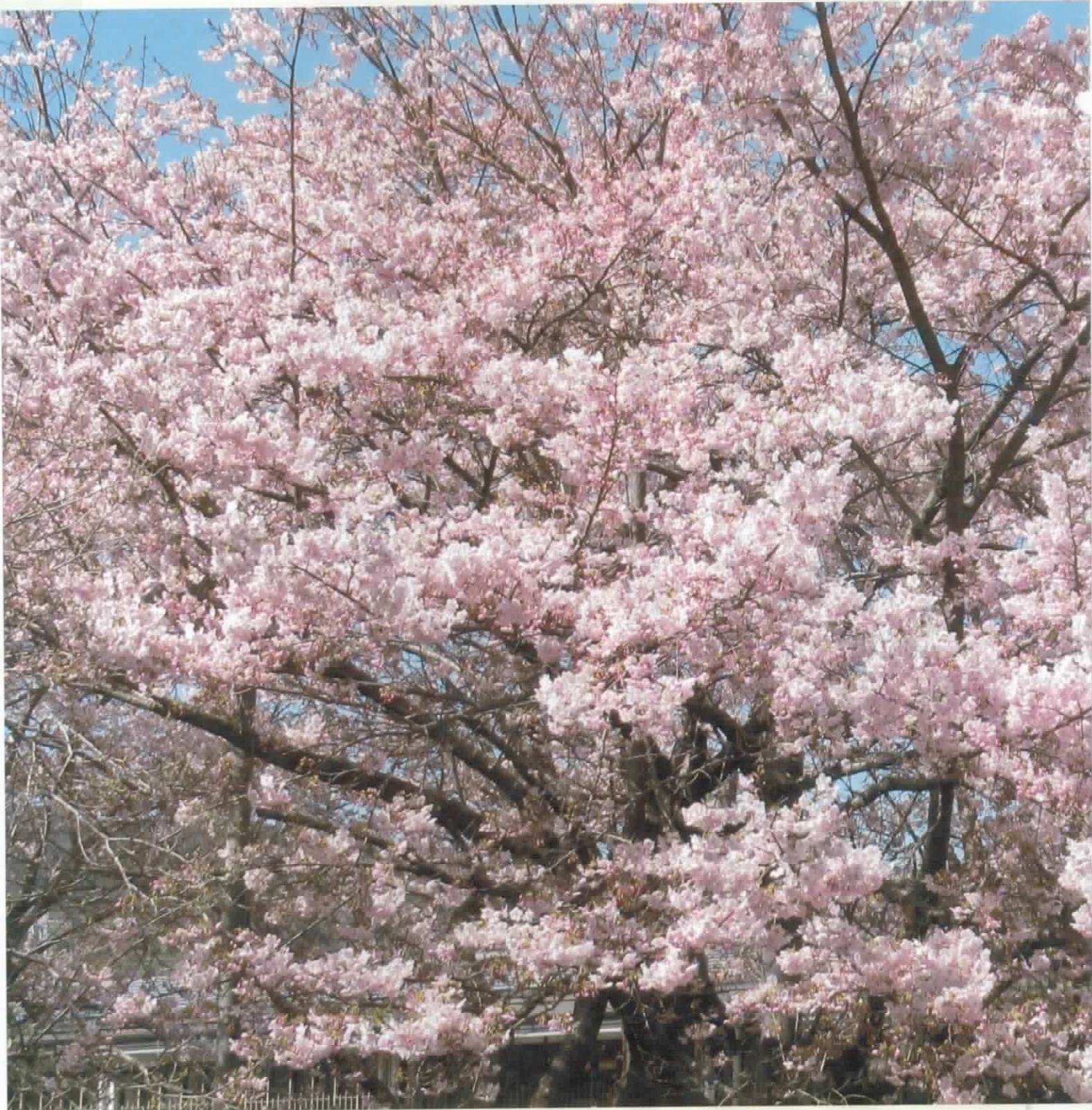


園藝文化



No.130

『園芸文化』題字について

公益社団法人 園芸文化協会 会長 小笠原左衛門尉亮軒

2018年3月の『園芸文化』再々発刊以来、題字に何か意味をもつ文字はないかと常々思っており、古来名筆と云われた文字をあれやこれやと思いを巡らしていました。

漢字の国、中国では書聖と云われた王羲之、唐代の歐陽詢、顔真卿などの字も考えてみましたが外国のこと、我が国では、道風、行成などは仮名文字は多く……などと、なかなか思いつかずにおりましたが、正倉院展を拝観する機を得て、聖武天皇自筆文書『聖武天皇宸翰雑集』が架蔵されていることを知り、その複製本はないかと調べたところ、大正時代に佐々木信綱氏によりつくられたコロタイプ版（実物を写真撮影し複製したもの）で実寸大のものが極少数部刊行されており、東京大学に三点、大阪府立中之島図書館などに所蔵されていることがわかりました。幸いにも、大阪府立中之島図書館で実寸大のコピーをいただくことが出来ました。

『聖武天皇宸翰雑集』は一万八千字に及ぶ長巻で、その中から「園」「芸」「文」「化」の四文字すべてを探すことは大変かつ至難なこと。しかし息子の小笠原誓がパソコンで『聖武天皇「雑集」漢字總索引』（合田時江編・清文堂刊）を見つけてくれ、偶然にも四文字とも記載があり、今回こうして集字することが出来ました。このうち文字が複数あるものは誓がパソコン上で並べ、ふさわしいと考えた文字を選び、会報編集委員会に諮ったうえで採用となったものです。

以上のような経緯により、新しく協会誌の題字を聖武帝自筆文字を利用させていただくことは、誠に畏れ多いこととは十分承知しておりますが、当会初代会長は島津忠重氏、その甥にあたる久秀氏のところへ、昭和天皇ご息女清宮貴子様をご降嫁されました。これもご縁の内とお許しいただけるものと考えます。

敬白

令和4年 春日

CONTENTS

園芸文化 January 2022 No.130

寸暇録（すんかろく） 連載第五回 植物番附、刷もの集めに熱中	小笠原 左衛門尉亮軒 （おがさわら・さえもんのじょうりょうけん）	1
桜の季節がやってくる	和田 博幸（わだ・ひろゆき）	6
令和三年度 園芸文化賞 雪割草を通して広がる世界	岩淵 公一（いわぶち・こういち）	8
令和三年度 園芸文化賞 園芸文化賞をいただいて	塚本こなみ（つかもと・こなみ）	10
アーカイブ 私の植物記 サクラの話 佐野桜と名づけ親 牧野富太郎先生 第15代 佐野 藤右衛門（さの・とうえもん）		12
会報「園芸文化 みんなの広場」ご紹介	南場 浩一（なんば・こういち）	13
事務局より（協会案内）		13
会報「園芸文化 みんなの広場」より	南場 浩一（なんば・こういち）	〔裏表紙〕

表紙写真 [和田博幸]

大漁桜 タイリョウザクラ

Cerasus × kanzakura 'Taityo-zakura'

「大漁桜」の作出地は静岡県熱海市で、早咲きのオオシマザクラの実生選抜で、もう一方の親はカンザクラと推定されています。両親の早咲きの特性を引き継ぎ、「河津桜」にやや遅れて咲き始めます。「河津桜」ほど花の紅色が濃くなく、やや濃い桜色をしています。耐潮性があり海岸に近い場所でも良く育ち、縁起の良い名前でもあることから、海沿いの地域でこのザクラを植える所が増え、早春の桜の名所ができています。

* 編集制作 / (公社) 園芸文化協会 会報編集委員会

* DTP デザイン / 中村奈保子 (ムルハウス)

* 写真提供 / 岩淵公一 小笠原左衛門尉亮軒 第15代 佐野藤右衛門 塚本こなみ 南場浩一 平等院 和田博幸 (五十首順)



寸暇録

一般財団法人 雑花園文庫・庫主

小笠原左衛門尉亮軒

連載第五回 植物番附、刷ものの集めに熱中



図1：萬年青 藤浪龍 多賀丸 源好画 秀穂賛
尾張津島芳心亭 慶応3年初秋(1867)



図2：ツチアケビ
と名付ル(仮題)
江戸駒込染井
花屋小右衛門
享保7年5月
(1722)

* 図1、図2は、本郷木内書店で求めた刷もののうち

当時の熱を伝える刷もの

園芸書集め話は、本誌一二六号に書かせてもらった。園芸、本草書を集め始めて七、八年、仕事で上京した折、寸暇を惜しんで神保町や本郷通りへつい足が向くようになった。取り分け本郷界限は理学系の書店が多く、地下鉄本郷三丁目駅を出て、交差点を渡って東北側の琳琅閣、本郷通りを北へ進んで、東大赤門真向いの木内書店、正門前の井上書店、少し北の伯林社などを一廻りするのがいつの間にか習慣のようになってきた。中でも赤門前の木内書店の店主、木内民夫氏とはいつしか顔見知りとなり、居られるときは小一時ほど話し込むようになった。とても気さくな方で古書について多くのことを教えていただいた。

或る時、「貴殿のように、本草書、植物書、園芸書を集められるのは結構ですが、基本

【寸暇録とは】

忙しい日々の暮らしの中で、少しの時間を利用して行うことなどを、寸暇云々と言うようです。園芸を楽しみとする人、園芸を業とする人、共に気づいた事柄や、植物育てをしたことを書き留めたらと思って名付けました。

私が最初に書かせてもらいましたが、会員諸氏に書き続けていただければ幸いです。

(小笠原 左衛門尉亮軒・題字署名直筆)



図3：萬年青七種 他（仮題）
 関根雲停画
 天保2年11月(1831)
 オモト大葉種
 日本一 細葉黄実おもと 龍尾
 オモト中葉種
 斑入り黄実 織姫
 オモト小葉
 長嶋実生斑入おもと 斑入小おもと
 錦葉金魚情黄斑入
 斑入長春いばら
 爪白松葉蘭 —の図

合			花			類			朝																																																														
對幅三右			一右			星			日			月			一左			對幅三左																																																					
櫻葉			七星			大鏡車			後擲			蘆			水			籬			柳			胡			野																																												
松溪堂			東雲亭			松溪堂			松溪堂			東雲亭			東雲亭			東雲亭			東雲亭			朝雲堂			松溪堂																																												
川						玉						六						花						客						撰						歌						六																													
色						大						鳴						音						大						錦						七						仙						貴						赤						石											
葉						盆						戸						燈						松						葉						里						木						花						花						花						花					
松溪堂						松溪堂						松溪堂						松溪堂						松溪堂						松溪堂						松溪堂						松溪堂						松溪堂						松溪堂						松溪堂						松溪堂					
色						五						主						會						撰						五						節						五																													
鏡						原						祈						東						松						水						名						錦																													
松溪堂						松溪堂						松溪堂						松溪堂						松溪堂						松溪堂						松溪堂						松溪堂						松溪堂						松溪堂						松溪堂											

圖4：朝顔花合
 撰者 松溪堂 蘭花園
 本所押上大雲寺
 会主 東曉園 他3園
 万延元年7月4日(1860)
 変化朝顔 品種名付番附

* 図3、図4は昭和57年、東京古典会で求めたものうち

以降時々立寄ると、二枚また三枚と私用に残しておいていただくようになり、私も他店のカタログなどでも刷もの類にも目が向くようになった。昭和五十七年秋、東京古典会「入札会の目録に「摺物」として、三枚、五枚と組になった万年青、石斛、松葉蘭などの刷ものが数組並んだ。無論木内氏に入札をお願いし、そのほとんどを入手することができ、いよいよこの種のものが集った。主なものを並べて見るとざっと次のような植物などである。

万年青が一番多いようで、番附などは天保初年（一八三〇）から、今なお毎年発行が続けられている。他には、松葉蘭（竺蘭）、葉蘭（蕙蘭、金陵辺など中国や日本産のシンビジウム類）、富貴蘭（風蘭）、長生草（石斛）、豊年蘭（深山うづら類）、巻柏（岩松葉）、菊（中菊、大輪菊）、石菖、霸王樹（仙人掌）、花菖蒲、朝顔、撫子、桜草、木本類では、松（名木もの）、桜、梅、椿、山茶花、杜鵑（躑躅類）、楓、唐橘（百両金）、南天、牡丹、薔苳などがある。

その他、農業もので一番多いのは、「草木選種録男女之図」で農作業の内次図の年

意外に種類・意匠が多彩

は園芸書のようなだが、園芸資料には、番附、刷もの（摺物）と云う資料がある。書籍類に比べ低く見られがちだが、その時代の流行、熱中ぶりなど知るには必要な資料だと思いますよ！と教えて下さって、二、三点見せて下さり、結果私も同意し、買い求めたのが本題の始まりであった。



図6：富貴蘭（風蘭5種） 洛（京都）、柳枝軒撰、秋尾亭蒼山画 安政2年初春（1855）
フウキラン 大浪、天之川、大鵬、玉蘭、金錦鳥 以上5種の実寸大図



図5：松葉蘭 福祿壽
洛東 三暉堂画
江国 井上 湖陽堂
幕末（1860）
マツバランの福祿壽 実寸大図
絵、字共に見事



図7：長生草 古琵琶名器銘 城、攝、
江、社中編、東山清亮画
城、攝、江社中
嘉永5年霜月（1852）
セッコク獅子丸、青山、弦上3種の
名は、古来琵琶3名器の名前なり



図8：豊年草（錦蘭）
京都社中撰 京都社中
弘化2年3月（1845）
ミヤマズラの各地での栽培
品種を調査の上作成したの
か、京都あたりで品評会でも
行った時の出品記録か、いず
れにしても9品種多色摺りにて
図を記載す



図9：五葉一木（東都松）
高田書代作
武州高田馬場 植木屋彦五郎
江戸末期（1860）

図10：稀芳園、稀蕨園 両園花会
翁 催主
稀芳園、稀蕨園 両園
嘉永4年7月3日（1851）
アサガオ会出展記録

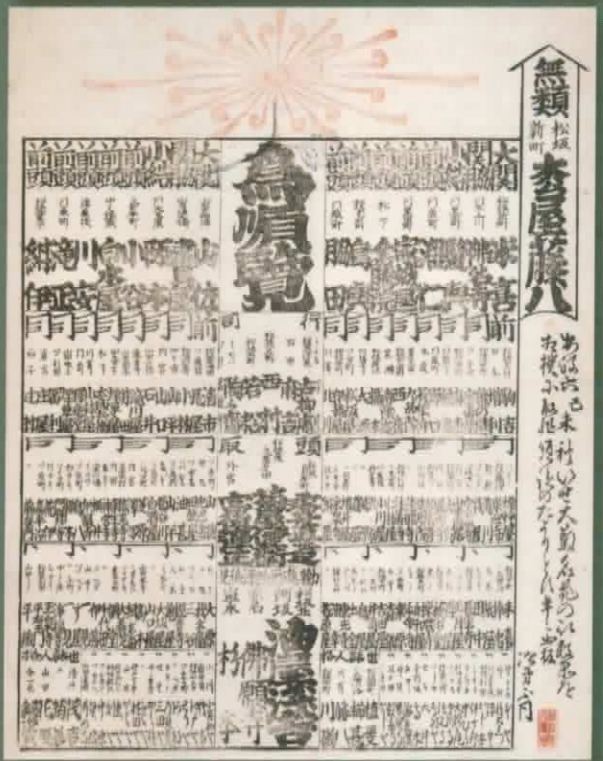


図11：いせ大菊 順 覧見立番附（仮） 安政6年秋（1859）

用に種子を採るあるいは親株を残すことを「母本選択」と呼ぶが、その一つの方法が記されている。飢饉心得、観光地の目玉になっている大木、名木の図として多いのが、松、蘇鉄、竹、梅、桜などである。

意外に植物の種類も多く、幕末に近づくにつれ旅行ブームに乗って名所、名物、名木などは、土産用に需要が多かったのである。

保存には大型五段引出しのついた図面庫を用いているが、只今では十二台が満杯状態となっている。

「日本博物学総合年表」（平凡社刊）の著者、磯野直秀先生には「こうした刷ものは、国会図書館や各地の博物館には少しはあるが、貴殿のコレクションは飛び抜けた量と質である」と褒めていただいた。

やがて紙背に見えてくる

この様に、物集めも集めて見ると一点や二点では見えにくい事柄でも、何となく見えてくることもある。一例を紹介しよう。

万年青の番附で日本最古と云われるのは、東京の万年青の専門、三光園さん所持の、豊後日田の育芳園刊「萬年青」（寛政十一年（一七九九）刊）である。「萬年青・観賞と栽培」（芹田潔著、昭和五十五年樹石社刊）に写真入りでそう記載されている。

私の所へもこの番附と同じ版が集まってきた。それを見ているうちにふと疑問が湧き上がった。それには「寛政十一年」とはどこにも記入がなく、ただ年記としては「己未孟春」とある。私の手元に集まっ



図 13：人丸山船形之梅の記 温露軒写
赤石 人丸山 柿本社
享保 18 年 2 月 (1733)



図 12：親鸞聖人御旧跡珠数掛桜 藤原墨浄画
越後小島村 梅護寺 江戸期末頃 (1860)

図 14：立花並次第不同
植木屋次郎
京都丸太町 植木屋次郎
江戸期末頃 (1860)



図 15：万年青 育芳園主人
豊後肥田育芳園 安政 6 年春 (1859)

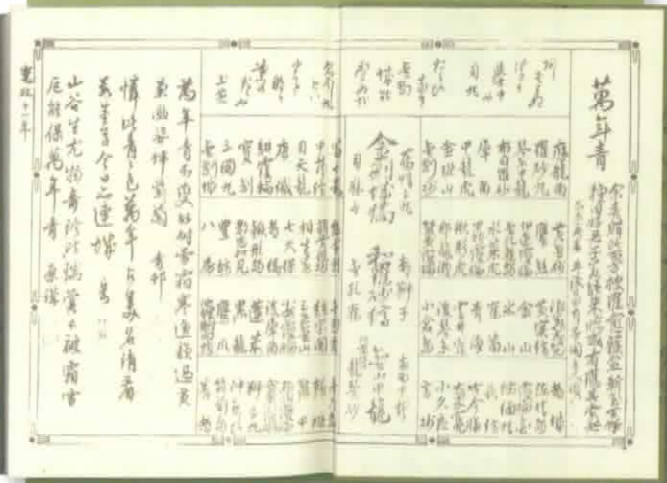


図 16：万年青・観賞と栽培 芦田潔著
表紙中に見開きで収録された左枠外に墨書にて「寛政十一年」と記入のある当時我が国で最古の植物番附とされていた

た万年青番附は、最も古いところで天保初年（一八三〇）であり、古いもの程、江戸、京、大坂が多く、地方はそれより少し遅れて刊行されているのが常であり、その例から判断するに、三、四〇年この一点のみが飛び抜けて早く、かつ豊後日田と云う地方。そこでもう一度芦田氏の本を見るに、寛政十一年は枠外に墨での書き入れ、これは干支の読み違いで、安政六年（一八五九）ではなからうかと気づいた。

それから証拠さがしを始めた。番附面、中心最下段に、阿蘭陀改「竜髪砂」とある。架蔵に多色刷「阿蘭陀」（秋尾亭着山画、安政三年（一八五六）刊）を見つけた。この資料により安政三年には阿蘭陀であったと考えられ、私の答えは己未は安政六年で正しいと結論づけた。

その後、著者芦田潔氏との面談の折、その事を話すと自分も調べて見るとのこと、暫くして同氏から、番附左側に記載されている、漢詩の作者を当たって見たと云う。例えば、最初（左側）の「青郵」は、寛政十一年には生まれていないと判明、「貴殿の判断が正しい」と連絡があつて育芳園の番附年代は決着がつけられた。

しかし「刷もの」の資料価値は重要視されなかったが、平成二十五年（二〇一三）江戸東京博物館に於て開催された「花開く江戸の園芸」展に、当文庫から多数の「植物刷もの」を出展させていただき、刷ものの資料の面白さなど理解していただき、刷ものチャンスとなり、以降各地で開催される江戸の園芸に係る展覧会には必ずと云つても良い程、こうした「刷もの」資料が展示されるようになった。

桜の季節がやってくる

公益財団法人日本花の会 特任研究員

和田 博幸

写真3：'大漁桜' は花の中心に旗弁が現れます

写真1：熱海市では年によっては年末から咲き始める'寒桜'



写真2-1 (上)、2-2 (右)：市街地を流れる糸川沿いの遊歩道には約60本の'寒桜'が並木状に植えられています (熱海市)



写真4：「鈴廣かまぼこの里」の周辺を彩る'大漁桜' (小田原市)

1871年にイタリア人が熱海市に持ち込んだとされ、これを増やして市内に点々と植えてきました。これには牧野富太郎の助言があったようで、随筆の中で、寒桜を温暖な熱海市内にまとめて植えれば、花見客が押し寄せるといふようなことを書いています。今はこれを実現し、市街地を流れる糸川沿いの両岸に、距離にしてわずか150m程ですが、約60本のあたま桜が植えてあります【写真2】。1月中旬から2月中旬までの1か月間、日本一早い「糸川桜まつり」が開催され、夕刻からはライトアップされた桜並木も楽しめます。この時期には熱海梅園で梅まつりも開催しているので、ここでは梅と桜のお花見が一緒にできます。熱海市に由来する品種がもう一つあります。大漁桜、(Cerasus × kansukura 'Tainyo-zakura') といひ【写真3】。これは市内の中学校の校長だった角田春彦が、早咲きのオオシマザクラに結実した種子を播種

あたま桜と大漁桜

新年を迎えると早々に、サクラの愛好家はそわそわし始めます。サクラの開花はまだ先だと思ふ方がおられるでしょうが、数多くある園芸品種の中にはもう咲き出しているものがあります。愛好家の気分はすでに春なのです。今回はあまり知られていないけれど、サクラ好きなら必見の名所や珍しい品種が見られるような場所を紹介し、一足早いお花見を楽しんでいただこうと思います。

千葉市内の新名所

し、育成した苗の中から選抜したものです。花の色が桜鯛の色に似ているのでこの名を付けたそうで、全ての花に旗弁を生じる特徴があります。原木は熱海市内にありますが、まとめて見られる所は30km離れた小田原市内にあります。かまぼこの老舗の鈴廣が経営する「鈴廣かまぼこの里」の周囲に植えられていて【写真4】、2月中旬から咲き始め3月上旬まで見られます。箱根観光のアクセス上にあるので、立ち寄って早春のお花見をするのも一計です。

いろいろなサクラを楽しむのだったら千葉市内の青葉の森公園が挙げられます。この公園はJR千葉駅から南東方面にバスで15分ほどのところにあり、広さが54haもある県立公園です。この公園には約80品種、1,500本のサクラが植栽され、早咲きの河津桜、(Cerasus × kansukura 'Kawazu-zakura') が咲き始める2月下旬から、4月下旬に、関山、(Cerasus serrulata 'Kanzan') が見頃になるまで次々と花が楽しめます。見所はお花見広場で、圧巻の、染井吉野、に混じってやや花色の濃い、アメリカカ、(Cerasus × yedoensis 'America') が混植され、その微妙な違いが分かれば、お花見の楽しさが倍増します。また、さくら山は園路沿いにサトザクラ類を植えているので【写真5】、4月中旬には絢爛豪華な八重咲きの花を散策しながら楽しめます。珍しい品種ではアメリカの南カリフォルニアにあるハンティントン植物園から分与され増やした、ピンク・クラウド、(Cerasus 'Pink



写真7：迫力ある桜景観（群馬県立森林公園さくら山）



写真5(上)：色とりどりのサトザクラ類が小高い丘の斜面に咲く（千葉県若葉の森公園さくら山）



写真6(右)：ピンク色の花がかわいらしい‘ピンク・クラウド’



写真9：様々なサクラが彩るパノラミックな風景（伊香保グリーン牧場）



写真8：広場を囲むように咲く‘一葉’（伊香保グリーン牧場・美術館芝生広場）



写真10：鮮やかな黄緑色でふくよかに咲く‘園里黄桜’（上野公園・動物園前交番脇）

都心を離れ、車で2時間余りの群馬県内にサトザクラ類が植えられた2つの名所があります。ひとつは妙義山麓にある群馬県立森林公園さくら山で、1977年から5年かけて苗木を植え続け、1983年4月に開園しました。47haの広さがあり、47品種約5,000本が咲き誇ります。花のピークは、以前は4月下旬から5月上旬といっていました。近ごろは暖冬の影響で、4月中旬から下旬に花が揃います。尾根ごとに特徴のある桜の景色が見られ、品種が多く植えられているのは、園内の中央部にある中央園地と下の園地周辺です。ここでは京都の佐野藤右衛門が広沢池にあつたヤマザクラの種子を播いて育てた‘佐野桜’（*Cerasus jamasakura* ‘Sanozakura’）が多く植えられ、奇岩が露出した山肌の妙義山を背景に紅色の濃く、妹背（*Cerasus serrulata* ‘Inose’）と一緒に迫力ある桜景観が見られます【写真7】。

里桜を満喫

‘クラウド’という品種があつて【写真9】、これは国内では日本花の会結城農場とここで見られません。3月中下旬に公園へ行くといわれます。樹高が高く育っているので双眼鏡を携帯してください。

ここから車で1時間ほどの所にもうひとつの名所、伊香保グリーン牧場があります。こちらは榛名山の麓で、伊香保温泉の温泉街にほど近いところにあります。ここではパノラミックなサクラの景色が楽しめます。ハラミュージアムアークが隣接し、一体となって桜景観を成しています。美術館では芝生広場を、‘一葉’（*Cerasus serrulata* ‘Hisakura’）が囲み【写真8】、牧場の小高い丘からは何種類ものサトザクラ類が斜面を彩っています【写真6】。

最後に注目のサクラをひとつ紹介します。上野公園の動物園前交番の脇に花が黄緑色の八重桜があります【写真10】。名前を、園里黄桜（*Cerasus serrulata* ‘Sonosotokizakura’）といいます。2001年に長野県須坂市で羽生田郁雄が発見した、‘普賢象’の枝変わり品種で、黄緑色の花弁に緑の筋が入った花を咲かせます。今まで黄色系の桜だと‘鬱金’、や、御衣黄、須磨浦普賢象、が知られていましたが、もうひとつ品種加わつたことになりました。

上野公園は、染井吉野、が有名ですが、実は周辺の社寺を含めて56品種のサクラが見られます。上野公園桜守の会のホームページから「桜マップ」がダウンロードできるので、これを出して公園へ出かければ、サクラの位置と品種が分かり、お花見の楽しさ倍増します。あまり知られてはいませんが、上野公園は、染井吉野、が散り始める頃から様々なサクラが楽しめるのです。私たちの身近にはいろいろな種類のサクラがたくさんあります。春はそれらが共演するかのように咲き誇るので、さあ、お花見に繰り出しましょう！

令和三年度 園芸文化賞

雪割草を通して広がる世界

国際雪割草協会会長
育種家

岩淵 公一

〈受賞理由〉

雪割草育種の第一人者として、日本の固有種である雪割草の多種多様な品種を作出したほか、講座やメディアを通じて普及活動を実施し、園芸種としての地位を確立させ、園芸文化の発展に貢献した。

大群落をめぐる衝撃

雪割草との出会いは、50年経た今でもはっきりと記憶に残る衝撃的な出来事でした。野生ランの調査で山々を巡っていた時、藪をかき分けようやく辿り着いた尾根筋から下の斜面を見下ろすと、そこは一面の色とりどりの「花むしろ」。林床を明るく照らし、一つとして同じ個体がないくらいの変異の大爆発が見渡す限り続く、オオミスミソウの群落であり、まるで異次元空間に飛び込んだ瞬間でした。

長い間、雪割草は自生地の住民にとつて「春を告げる花」として親しまれながらも、一般には広く知られる花ではありませんでした。しかしこの頃から、花の姿と希少性から園芸商品として注目を集め始めていました。

その後、柳宗民先生ご夫妻と自生地を巡り、かけがえのない時間を共にし、園芸界への広く深い見識に接したことは、振り返って私と家族の人生を方向づけるものであったと思っています。

1991年、NHK「趣味の園芸」テキストの取材時に、花で足の踏み場のない自生地を見てもらいたいと案内した地

には、かつての風景はなく、薄色の雪割草がポツリポツリとあるばかり。凄まじい乱獲の進行を思い知らされました。農場の移転後数年は交配に忙しく、自生地を訪ねていなかったのです。この衝撃が雪割草の保護を考える大きな契機となりました。先駆けてすでに八重咲を簡単に人工交配で作出できるようになっていました。NHK出版の出澤さんから「交配のノウハウを発表することが、これ以上の乱獲を防ぐ大きな武器になる」との提案。決断の時であり、育種家としての起点となりました。

育種と出版で普及活動

1994年からは山野草関係各誌に交配のノウハウを発表。2001年にNHK「趣味の園芸」大塚みゆき編集長のもと、「雪割草」を出版することができ、小笠原先生にも「江戸に咲いた雪割草」を寄稿いただきました。その後NHKテレビ「趣味の園芸」出演・NHK趣味の園芸フェスティバルへの参加、新潟日報事業社より「雪割草」栽培と花創りの楽しみ」の出版など、今日まで様々な機会を通じて栽培と育種技術の普及に努

めてきました。今ではタネを播いて新しいオリジナルを創る楽しみが主流となり、自生地保護へと緩やかに繋がってきていると認識しています。

世界への紹介と園芸分類

1999年にはRHS（英国王立園芸協会）月例のロンドンフラワーショーの会場で、日本の雪割草と私が作出した雪割草をスライドで紹介。実は世話人のウィズレーの高山植物課課長トレバー・ウィルシャーさんが急病で中止かという事態でした。それでも十数人の方々が待機しておられ、大会場の中少ない聴衆、しかし友人のアッシュウッドナーセリーのジョン・マッシーさんも駆け付けてくれ思い出に残る講演会でした。そして参加者の中にはTHE GARDENの編集者ジョン・アドルさんの姿があり、2000年2月号での農場とイワフチオリジナルそして日本の雪割草の紹介となりました。

この渡英にはもう一つ大きな目的がありました。それは世界共通の雪割草の園芸分類を作成すること。個体変異が広範囲にわたるためにどうしても必要な作業でした。当時、レディング大学大学院生の



岩淵公一氏。
雲南省に近い省境にある四川省 4300メートル付近の巨木シャクナゲ自生地にて。2017年6月

今は無い当時の自生地のイメージを国営越後丘陵公園でのディスプレイで再現

趣味の育種

十数種類の草木で趣味の育種を楽しんでいます。その一部を紹介します(交配表記は♀×♂)。

椿 *Camellia*

椿オリジナル品種は、ト伴系の雑種 2~4 世代にわたり数多く作出しました。



右: 'EdoNishiki' (江戸錦)
× 'Bokuhan' F₁
多井・姫唐子・紋り



左: 'BeniFutae' (紅二重)
'Bokuhan' F₁ × 雪椿唐子
端正な花型の二段咲き

百合

Lilium

ウイルス抵抗性個体の作出を目的に交配しました。♀親は黄金鬼百合、♂親は透百合の2品種あります。画像はこの組み合わせの孫達です。



アジアティック系(オウゴンオニユリ×スカシユリ栽培品種) F₂

オリエンタル系交配では購入した個体がひどいウイルス病でした。ウイルスフリー苗を作出するためにヤマユリとの交雑種を作りました。



左から: 'Casa Blanca'
(カサブランカ・自家授粉)
ヤマユリ × 'Casa Blanca'
ヤマユリ



'TachiKanhi'
(立寒緋)

桜 *Cerasus*

寒緋桜系ではカンヒザクラ F₂ で樹姿が直上性で枝が広がらないイワフチオリジナル、'TachiKanhi' (立寒緋) を作出。

1995年、'SomeiYoshino' × オクチョウジザクラの交配を、染井吉野と奥丁字桜の雑種を検証するため行いました【右囲み・参照】。

結果、期待していなかった後牙(のちざえ)の品種が2個体誕生しました。咲始めは白花ですが次第に色がのり花終わり頃には濃紅にかわります。通常4月初めの開花ですが、画像の2019年の開花は2週間遅れでした。



左: 2019年4月18日 中央と円内: 4月23日



「雪割草まつり」に向けて、秋、国際雪割草協会会員の手による実生増殖苗を、毎年1万株以上植栽



シバ型・二段咲きの兄弟株



倒木の下でも元気に育つ

小さな野の花に導かれて

老川順子さんに私の園芸分類表を英訳してもらい、キユー・ガーデンの高山植物課のマイク・シナットさんの教室で結果をレクチャーし、意見を聞きながら最終的に園芸分類を完成させました。IHS会報の他、細部は省略しましたが「RHSJ」(英国王立園芸協会日本支部会報) 2000年3月号に載せてあります。

2001年に国際雪割草協会(IHS)の設立。本部事務局をおく国営越後丘陵公園では、毎年3月に「雪割草まつり」を開催。2001年から以前の自生地の姿を再現すべく会員の実生増殖苗を毎年一万株以上植えています。

幸い公園の周りには自生地がなく遺伝子汚染の心配がありません。又アドバイザーとしてかかわっている「大崎雪割草」の里」は自生地の中にあり、園芸種は一切植えず、もともと自生していた株から採種し増殖した個体のみを植栽しています。雪割草に限らず元の自生種に影響を及ぼさないか、深く考えた上で植栽する必要があります。

2002年10月にはウイズレーとの交流事業として、会員と共にロックガーデンに、一〇〇株の植栽を行い、レセプションも行われました。

また一方で、雪割草連合会(大原久治会長)の活動により、2008年に「新潟県の草花」に指定されました。

かつて絶滅が懸念された雪割草は、地域で見守る花として「雪割草街道」に集う人々の心を和ませてくれています。

私の育種場も幾度かの自然災害に見舞われ、その都度小さな花に宿る大きな力に導かれ歩んできました。花を介した多くの出会いあつてのことと感じていきます。

* 染井吉野による雑種の拡散

桜の仲間は自家授粉しません。染井吉野だけの植栽地ではタネは移りません。しかし他の品種や自生種のある場所では当然移ります。つまり染井吉野についてのタネはすべて雑種になるのです。現在日本中に染井吉野との雑種が生育していると考えられます。桜の媒介は虫だけでなく鳥類が行います。しかも種子を広範囲にばらまくのもすごい勢いで広がっているのです。

私の農場周辺の山には野生の桜の幅広い変異が見られます。雑種起源と思われる新品種であふれているのです。例えば自生の奥丁字桜はせいぜい直径15cmで株立ちになりますが、直径30cm以上で、花も開花時期も奥丁字桜と同じ個体もあります(染井吉野の木に奥丁字桜の花が咲く)。

野生の桜研究は、雑種を疑うことが前提になると思います。



英国植栽ツアー。2002年10月、ウイズレーにて国際雪割草協会の会員とともに、1,100株のオオミスミソウを植栽(撮影:岩淵公一)

令和三年度 園芸文化賞

園芸文化賞をいただいで

元あしかがフラワーパーク園長／現公益財団法人浜松市
花みどり振興財団はままつフラワーパーク理事長・園長

塚本こなみ



塚本こなみ氏

〈受賞理由〉
日本初の女性樹木医となり、あしかがフラワーパークへの藤の巨木移植を成功されるなど、植物を重要な財産として保存することへの情熱と独特の感性を活かした植物園運営を实践することにより、植物の尊さを広く伝え園芸文化の発展に貢献した。

フジとの出会いと大役

各位のご推挙を頂戴して「令和3年度園芸文化賞」を戴きました。身に余る大変名誉な事と深く感謝申し上げます。

造園業界に入り50年が経ちました。平成4年11月、樹木医に合格した私は、樹木にさらに深く関わるようになりました。そんな平成6年初春、足利市内の大きなフジの移植のご依頼を受けたことが私とフジとの出会いです。



移植の際の吊り上げ状況(あしかがフラワーパーク)1996年2月27日

それまでは公園や屋上緑化・庭を造り、その緑を美しく守り育てることに専念していましたが、思いがけず樹木を命として守るという大役をいただきました。直径1mを超えた大きな4株のフジを移植するという、前例のない依頼だったので。

私はフジを移植したことがありませんでしたが、フジの強い生命力を信じてこの仕事を引き受けたのでした。

このフジをどのような手法で移動させるのかということに思い悩む毎日でしたが、フジも人の命と同じという考えを貫き、移植は無事に完了しました。

見守りつつ学んだ21年

その後、あしかがフラワーパークの植栽デザインの依頼も受け、平成9年4月にグランドオープンしました。その後もフジを守るための育成管理と園の運営の依頼を受け、大きなフジを見守り続けました。移植したときには72㎡であったフジは年月の経過と共に成長して、3年ほどで400㎡に柵面積を大きく広げました。さらに10年が過ぎるころには、1株で1000㎡までつる枝を広げ、世界で最も美しいフジへと成長していったのです。

600量(柵面積)のオオフジ(あしかがフラワーパーク)



桜とチューリップの庭園 (はままつフラワーパーク)



平等院風凰堂とフジ (写真: © 平等院)

日本はフジの国と言われるほど全国にフジは自生しています。古来より日本人が着用していた衣はフジ布であり、またフジのツルは現在のロープ代わりに使用され、建造物の木材の運搬や建て方に、また石などの曳き方にも無くてはならない物であったと聞いています。フジの名字も数多く、その数は植物の中では最も多く使われています。藤原姓はフジの強さを最も象徴しているものとも考えられます。

フジの事なら何でも知りたいと日本中のフジを調べました。

日本中にフジは自生しているのに、フジの生理生態は知られていないことに気づき、フジの育成管理に取り組みました。あしかがフラワーパークは徐々にフジの美しさが世界中に広く知られるようになり、多くのお客様にご来園をいただいています。

フジの花の頃、涙を浮かべながらその美しさに魅了されているお客様の笑顔に出会えることはとてもうれしい瞬間でした。21年間のあしかがフラワーパークの育成の仕事は、私にとって、フジの学びの場であり

ました。全国のフジの名所の育成指導に関わり、フジをさらに深く学ぶことが出来ました。

世界一美しい園を目指して

平成25年、はままつフラワーパークの再建を委ねられ、運営を開始しました。

国内には多くの公園、植物園、フラワーパークが存在します。有料公園の運営は全国どの施設も非常に厳しく理想とする運営が出来にくい状況にあると承知しています。今までの多くのパークが初春から冬までの多くの植物を揃え、展示することが園の使命であるかのように考えられていました。はままつも同じでした。

再建にあたり、今までの原資は何かを見つめなおし、改めてどのような魅力を創出するのか、またどのような入園料の設定をするかを検討しました。

はままつフラワーパークは芝生広場、花壇そして梅から始まり、サクラ、フジ、バラ、ハナシユウブ、アジサイ、モミジ、イルミ



スロープカー (UD 昇降機)
ユニバーサルデザインで、車椅子でも昇降が容易なスロープカー。春には満開の桜が望める最高のロケーションに設置 (はままつフラワーパーク)

ネーションなどなんでも揃えていました。

これからの時代に、どのような魅力を創出すれば運営出来るのか? これからのパークはどのような個性や魅力が求められるのかを検討しました。民間施設と公立の施設とは役割も違います。公立の施設としてご来園のお客様に何をお渡しをするのか、そのコンセプトを明確にしなければと考えました。その結果「世界一美しい桜とチューリップの庭園」をつくらうとスタッフの意見を統一して取り組みました。また、最も美しい時期に入園料のピークを設定する変動料金制を新たに取入れました。

その後、国内外からの来園者も一気に増えて入園者は倍増し、少ない指定管理料でも運営ができるようになりました。入園者の倍増を受けて浜松市からの改修予算も増えたことから、さらに整備が進み、魅力の創出に邁進できるようになりました。

園内には、エレベーターやモノレール式スロープカーの設置も進み、安全で快適な施設になっていきます。また、園内に不登校の子供が通う適応指導教室の設置にも協力しました。多くの方々の笑顔が溢れる園内にしたと職員、スタッフと共に「さらに美しく」を目標に努力を重ねてまいります。

昨年50周年を迎えました。行政と共に「NEXT50事業」に取り組みしていきます。植物の持つ力や美しさが、多くの皆様の笑顔や心の健康を育むものと感じて、この仕事に関わる幸せを感じています。

今後とも倍旧のご指導をよろしくお願ひ申し上げます。受賞の御礼の寄稿とさせていただきます。

サクラの話

佐野桜と名付け親
牧野富太郎先生
第15代 佐野 藤右衛門

私たち父子が牧野先生から受けた示教と恩恵はかぎりもないが、私にとつてなにもより感銘ぶかいことは、私が育てたサクラに佐野桜の名をあてえられたことである。それはわが家に近い広沢池畔のヤマザクラのなかから、花色の濃いものの種子二〇リットルほどを私の母が播種して、約一万本の苗木を育てた。のちに私の次男、幸夫の鳴滝の畑へ移植栽培したが、そのなかから一本の八重咲きが発見された。そこでこれを自園に移し、そのころこ

れた牧野先生に見ていただいたところ、ひじょうにめずらしい優れたものといわれた。その後、私はこの一本をもとに接ぎ木をして多くの苗木を育成した。五弁のヤマザクラからこういう変種ができたのはいろいろ理由があるろうが、むろん私の力ではなく、偉大な進化の力が生んだものといえよう。私にとつては大きな喜びで、得がたい収穫といわなければならない。

さて昭和三十一年の夏、各新聞はいっせいに牧野先生の危篤を報じた。先生は九五歳の高齢、ふとした風邪をこじらせて重症におちいり、しかも連日の猛暑のなかで水さえのとら

い日がつづいた。ところが先生はこのときも死線を突破して奇蹟的にたちなおり、病体をケロリとわすれて、看護の鶴代さんに筆紙を所望し、植物の図や原稿を書くというありさま、主治医はもとより付きそいの人々を驚嘆させた。これは人ならぬ強靱な心臓ともって生まれた先生の精神力であり、一世紀を生きぬいたたくましい根性であったろう。こうして起死回生したものの、さすがにその後の先生のご日常はまえとはちがうことを私は聞いたのである。そこで早くからお見舞いをして、たいと思いつくお礼をおくれになり、ようやく上京して病床をおたずねしたのは、その年も暮れの十二月二十二日であった。

先生はスヤスヤと安らかに眠っておられ、看護の鶴代さんが声をかけても身動きもせず、目もあけられなかった。そのお顔を見まもっていると、私は胸の底から涙がこみあげてくるのをどうすることもできなかった。やがて鶴代さんがゆりおこすと、先生は目をひらかれて、鶴代さんが渡した名刺を見つめ私を見て、にっこりお顔をほころばされた。昔に変わらぬ慈父の笑顔である。「佐野さんか、ようきてくれた。京都のサクラはどうか。わしはあんたといっしょに見た花をときどき夢に見るよ」といわれた。私はおからだにさわりはしないかと心をくばりながら、大戦で絶滅にひんしたサクラが、戦後十年、まえにもまして回復しつつあることをお話すると、

「そうか。それはなによりじゃ。久しぶりにサクラの話聞いてうれしい。遠慮なく話してほしいな。わしも、もういちど元気になって見に行きたいな」

先生のお顔には興奮したような血の気がさした。

「わしもヘリコプターが飛行機で空からサクラを見たいと思ったが、つい機会を逸してしまった。こうして寝ていると、ときには子供のようになり、そんな自分を想ってみることがあるのだよ。ハハハ…」

たのしそつに笑われるのである。「ときに、あんたが見つけたサクラ、そうそうあの八重のヤマザクラはその後どうかな？」

「はい、たくさん接ぎ木いたしまして、五十本ぐらいいになりました。先生がごらんくださった親木は大きなものになって、立派に育っております」

「そうか、それはよかったな。一万本のなかから生まれたためずらしいものじゃ。なあ、佐野さん、あのサクラには佐野桜と名づけるがよい」

「えっ、それは。手前の名なぞを付けるのは」

「いや、あなたは自然が作ってくれたのだとおいいなのじゃろう。だが、あのサクラはやはりあなたの発見じゃ。かに天があたえてくれたにせよ、あなたの熱意が生んだのじゃ。八重山桜は品種名で、サクラの名ではない。それは佐野桜とすべきじゃ。この牧野が名づけ親になら」

「ありがとうございます。だいそれたこ

とは思いますが、先生からちようたにするならば光栄でございます」

「一本の草、一本の木を新しく発見することは容易なことではない。佐野桜は多年あんなが生命をかけ、サクラに打ち込んだ努力にたいするたまものじゃ。これからさらに新しいサクラを発見するじゃろうが、あのサクラを手はじめとして千代万代に残る。佐野桜、どうじゃ、いい名ではないか」

私は涙をおさえることができなかった。この感激はいままで経験したこともなく、生涯わすれることはできない。学者でもない私として僭越であるが、世界的学者であり日本の植物の父、牧野先生のご厚意を私はありがたうお受けするばかりである。私にはこのときが先生にお目にかかった最後となった。先生は翌三十二年一月十八日、ついに不帰の客となられた。

先生がお亡くなりになって四年後、昭和三十六年に先生の生誕百年祭が牧野邸でいとなまれた。鶴代さんから知らせを受けた私は、大阪空港から飛行機に乗って東京にいき、式に参列した。先生のお写真を胸に抱いて機上の人となったのである。

(通巻第三三三号 昭和四五年発行)

プロフィール・さのとうえもん(執筆当時 造園業「植藤」第15代当主)

一九〇〇(明治33)年〜一九八一(昭和56)年。京都生まれ。京都市立第二商業学校卒業。昭和46年勲五等旭日章、昭和47年吉川英治文化賞等受賞多数。著書『桜花抄』、『桜守二代記』他。昭和55年度園芸文化賞受賞。



八重咲きヤマザクラ '佐野桜'
Cerasus jamasakura 'Sanozakura'

会報「園芸文化 みんなの広場」ご紹介

「園芸文化 みんなの広場」編集長 南場浩一

園芸文化協会では、協会の活動報告、予告などを中心とした会報を年4回「園芸文化 みんなの広場」として発行しています。

一昨年からの新型コロナウイルス対策で色々な活動が自粛されてきました。当協会も活動がほとんど中止にな

り、活動報告がなくなったことで二つの新しい記事の掲載を始めました。これまででない内容ですが園芸文化を多角的に捉えたものです。

今後は協会活動だけでなく、会員皆様の情報も掲載して本当の意味の「みんなの広場」になればと思っています。

(裏表紙につづく)



事務局より (協会案内)

公益社団法人 園芸文化協会は 1944(昭和 19)年に、園芸文化の向上を目的に設立された園芸愛好団体です。2022(令和 4)年に創立 78 年を迎えます。園芸文化の普及と発展のためにさまざまな活動を行っています。

主な活動

- ①園芸セミナー(講座、見学会など)の開催
- ②展示会やコンテストの実施
- ③協会報『園芸文化みんなの広場』、協会誌『園芸文化』の編集・発行
- ④功労者表彰(園芸文化賞)、調査研究
- ⑤園芸活動への支援(講師紹介、審査員派遣、寄稿・監修、後援協賛、賞の交付 他)

会員特典

- ①当協会主催の園芸セミナー等に会員価格で参加できます。
- ②各種園芸イベント等の招待券や優待券を進呈します。
- ③協会報や各種園芸イベントの案内など役立つ情報をお届けします。
- ④園芸に関わる方々との交流の場を提供します。
- ⑤賛助企業より特別提供品を進呈します。(入会時、交流会参加時)

入会について

- ・会費 正会員(個人) 5,000 円
- 正会員(団体) 10,000 円
- 賛助会員(企業等) 1 口 20,000 円~

- ・いつでも、どなたでも入会できます。
- ・会費の有効期限は納入日より3月31日までです。
- ・個人会員に限り、10月1日以降入会の場合、初年度のみ年会費半額(2,500 円)となります。

入会方法

- ①郵便振替にて
入会専用の「払込取扱票」にて年会費をお払い込みください。(手数料不要)
- ②入会申込書にて
銀行口座への振込や請求書の発行をご希望の方は、「入会申込書」を事務局あてご送付ください。申込書到着後、入会手続き方法をご案内いたします。

公益社団法人 園芸文化協会 事務局

〒113-0033
東京都文京区本郷 1-20-7 安藤ビル 202 号室
電話：03-5803-6340(平日 10:00~17:00)
FAX：03-5803-6341
メール：enbun@soleil.ocn.ne.jp

*本誌へのご意見・ご感想を事務局までお寄せください。

会報「園芸文化 みんなの広場」より

「園芸文化 みんなの広場」編集長 南場 浩一

(13ページからつづく)



(2021 冬号)

おうち時間特集

コロナ感染で在宅勤務など自宅で過ごす時間が増えたことで、どのように過ごされているのかを語っていただいています。

巻頭ページ

折々のトピックやイベントの詳細をお伝えしています。最新号(2021年冬号)は、昨年11月開催の「観菊会2021」でした。

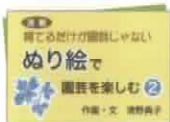
(2021 春号)



(2021 夏号)



(2021 秋号)



皆さんは何色セットの色鉛筆をお持ちですか? 100色以上の色鉛筆セットもありますが、12色や24色セットが一般的だと思います。でも、少ない色でも色数を多くすることで、100色以上の色を表現することができます。実際の花や葉の色に近づけることも可能です。今回は色鉛筆での表現方法について、いくつかご紹介したいと思います。ぜひ、いろいろと試してみてください。

色鉛筆のポイント

色鉛筆で色を表現する際は、同じ色で描く、混ぜる色を混ぜるだけでいいのがポイントです。色の割合や、色鉛筆の太さの割合と線と線の間隔、色鉛筆の「色」は、「黄」や「青」は、「黄」や「青」といった具合です。ただし、「白」は顔料の多いような色鉛筆で書かれます。「黄」を作りたい場合は「黄」や「白」ですが、黄色は「黄」のみを使い、黄り感や赤みは「赤」を混ぜて調整します。

●1色鉛筆と違う色の色に・・・ ●黄色と青色を比べると・・・

黄色と青色の混合は、緑や黄緑の中間の色になります。黄色と青色の割合が同じ場合は、黄緑色の中間の色になります。黄色と青色の割合が異なる場合は、黄色と青色の中間の色になります。

●色の割合によって違う色に・・・ ●色の濃淡

同じ色の色鉛筆でも、割合によって違う色になります。「黄」や「青」を多く混ぜると「黄」や「青」に近い色になります。黄を多く混ぜると「黄」に近い色になります。青を多く混ぜると「青」に近い色になります。

(2021 夏号)

最初の連載は清野典子さんによる「ぬり絵で園芸を楽しむ」(全4回)でした。今後もテーマを替え、一年4回の連載で続けていく予定です。次号(2022年春号)からは「花を上手に撮るちょっとしたコツ」と題した連載が始まります。



ぬり絵【作画：清野典子】(2021 夏号附録)

連載

育てるだけが園芸じゃない

刺激的な題名ですが、植物は絵画、写真、焼き物、茶の湯、染物など色々な物に取り入れられています。園芸文化協会ですから広く植物に関係することを紹介してもよろしいと思い始めました。

園芸文化 No.130

2022年1月
 編集発行：公益社団法人 園芸文化協会
 発行責任者：小笠原 左衛門尉亮軒
 編集：(公社)園芸文化協会 会報編集委員会
 編集委員(柴田貢 南場浩一 奥峰子)
 事務局：〒113-0033
 東京都文京区本郷 1-20-7 安藤ビル 202号室
 TEL 03 (5803) 6340
 FAX 03 (5803) 6341
 E-mail : enbun@soleil.ocn.ne.jp
 HP : http://www.engeibun.or.jp
 *無断転載・複製・複写(コピー)を禁じます